

カルメル

霊性センターニュース



フラ・アンジェリコ画 「リナイオーリの祭壇画」

2021年6月

376号



## 「イエスにお目にかかりたいのです」(ヨハネ12章21節)

創造されたすべてのものが最も高められるのは、聖体においてです。

感覚で捉えられるしかたで自らを顕わにしようとする恵は、神ご自身が人となられ、被造物のためにご自分を食べ物としてお与えになった時、この上なきかたちで表現されました。

主は、受肉の神秘の頂点において、ひとかけらの物質を通じて、私たちの内奥にまで達することを望まれました。この世界で、わたしたちが主を見いだせるよう、主は上からではなく、内から訪れてくださいます。聖体において、充満はすでに実現されています。それは万物のいのちの源であり、愛と汲みつくすことのできないいのちとがあふれです泉です。

全宇宙は、聖体の中に現存なさる御子に結ばれて、神に感謝をささげます。じつに聖体は、宇宙的な愛の行為そのものです。「そうです、確かにそれは宇宙的です。なぜなら、たとえ田舎のささやかな祭壇で行われていたとしても、感謝の祭儀は常にある意味で『世界という祭壇の上で』行われているからです」。

聖体は、天と地を結び、被造界全体を抱き、そして貫きます。神のみ手から出た世界は、全被造物が喜びにあふれ一つになって礼拝することを通して、神に帰るのです。すなわち、聖体であるパンにおいて、「被造界は、神化へと、聖なる婚宴へと、創造主ご自身との一致へと向かうようにと造られています」。それゆえ聖体は、被造界全体の信託管理人であるようにわたしたちを導く、環境への関心を照らし生かす光と力の源でもあります。

『ラウダート・シ』 236



## 目次

教会からの巻頭の言葉	1
目次	2
心の泉	3
カルメル会の企画案内	25
東京	26
キリスト教放送局 FEBC のご案内	29
京都	30
通信深読お申込みのご案内	32
諸所の企画案内	33
郵送お申込みのご案内	38
あとがき	39



# 心の泉



宇治カルメル会修道院



### 第三卷

## 第四十章 人間は自分のものとして、何一つよい物を持っていない、そして何一つ誇れない

### 1 子

《「主よ、あなたが心にとめられる人間とは何者か、あなたが訪れてくださる人の子とは何者か？」(詩編 8・5)。あなたが恵みをお与えになるその人間は、どのような功德をもっているのでしょうか？主よ、あなたが私を離れられないとしても、私には不平を言う理由がなく、私の望むものを与えてくださらないとしても、自分の当然の権利として要求できるものは何一つありません。私が真実に考え、真実に言えることは、私は無であって何事もできない、一つの善ももたず、万事に弱い不足した人間であり、虚無にすぎないものを求めがちだということだけです。あなたが助け、指導してくださらないかぎり、私はすぐ冷淡になり、衰えてしまいます。

### 2 み手を差し伸べてください

「主よ、あなたはつねに不変であり、永遠に存在されます」(詩編 102・28、13)、そしてつねに善であり、正義であり、聖なるものであり、すべてを正しく、清くおこない、何事も知恵によってはからわれます。ところが、徳において進歩するよりも、むしろ退歩しがちな私は、つねに同じ状態にとどまることができません。

「私は\*七つの期間をつねに変化しつつ生きていくからです。しかし、あなたのみ旨の時、助けのみ手を伸ばしてくださると、すぐさま私は好転します。それはあなただけが、人間の干渉なしに私を助け上げることができるからです」(ダニエル 4・13、20、22)。もはや私の心は固まり、ただあなただけに傾き、ただあなただけに休めるように私を強めてくださるのです。(\*訳者註、ダニエルの記す七つの期間、すなわち、乳児期、幼年期、少年期、青年期、壮年期、老年期、晩年を示す)

### 3 世間的な楽しみを拒みなさい

だから、もし私が敬虔を得るためにせよ、あなたを見いだそうという必要に迫られたにせよ——人間のなかで私を慰める者がいないので——人間からの慰めをまったく受けつけなくなれば、当然あなたの恵みに期待でき、新たな賜物に喜び勇むことができます。

### 4 疫病のような虚栄心

私の上ですべての善を与えてくださる主よ、あなたに感謝します。私は、あなたのみ前にあっては、「無である者、空しい者にすぎず」(詩編 39・6)、変わりやすい、弱い人間です。それなら私は、何を誇り、誰から尊敬を要求するのでしょうか？私が無であるから誇るのでしょうか？なんという虚栄心！

虚栄心は、実に一つの疫病であって、それ以上に空しいものはありません。それは人を真の光栄から遠ざけ、天の恵みを失わせます。自分で自分をよしとすれば、あなたに喜ばれず、他人の称賛を望めば、真実の徳を失います。

## 2021 聖ヨセフ年—6

日々の生活の中で

目立たないように

聖マリアとイエスを覆う

聖ヨセフのマント



マリアとヨセフは闇のうちに

生きておられました。

けれども、その闇においてすべてが

実現されるほどに力強い希望をもって、

すべては イエスによってなされるであろうと

知っておられたのです。\*

～福者マリー・ユジェーヌ神父～

あなたは神にとって、あきらめることなく探し続けられるその小さな銀貨です（「無くした銀貨」のたとえ、ルカ 15・8）。

主の目には、あなたは尊く唯一の存在として映っているので、み心において、あなたの代わりになる人はいないので。

～教皇フランシスコ～

主は、父の心を、母の心を、育てたいと願っておられます。

それは、開かれた心、自らを駆り立てる心、惜しみなく与える心、

不安を慰める思いやりの心、希望を捨てない強い心です。



今月は6日キリストの聖体、11日イエスのみ心、12日聖母のみ心、24日洗礼者ヨハネの誕生、29日聖ペテロとパウロの祝日を祝います。各祝日に聖ヨセフの執り成しを願ってコロナ禍の日々においても神との親しさを深めることができますように。

伊従 信子

ノートルダム・ド・ヴィ

\* 『いのりの道』 118p、聖母文庫、聖母の騎士社

## 創造主への賛美（43）

くのり 彰

テレーズの言葉に秘められるパラドックスは、いわゆる無一物あるいは無の状態を指していると思われる。何かを所有しているとき、人はそれに執着し、知らぬ間にそれに頼るからである。すべてを失った時、この世に頼るものがまったくなくなった時、その時こそ、その人にとって神のみが真に頼るものとなるのである。「無」が「全」となるのである。

パウロは、これを十字架の神秘として受け取っていたと思われる。この世で生きていくには、何かを持っていた方がよい。物であれお金であれ、技術であれさまざまな才能であれ、名誉であれ地位であれ肩書であれ、それらがその人の生活いろいろな形で支えてくれるからである。一切を失うこと、それは、その人のこの世での死を意味する。

キリストは、逃げることもできたのに、すすんで受難に向かわれ、予告通り、人の忌避する十字架につかれた。人間的に考えれば、実に愚かである。しかし、この愚かさの中に、真の知恵が輝いているのである。

ユダヤ人はしるしを求め、ギリシア人は知恵を探しますが、わたしたちは、十字架につけられたキリストを宣べ伝えています。すなわち、ユダヤ人にはつまずかせるもの、異邦人には愚かなものですが、ユダヤ人であろうがギリシア人であろうが、召された者には、神の力、神の知恵であるキリストを宣べ伝えているのです。神の愚かさは人よりも賢く、神の弱さは人よりも強いからです。（1 コリ 1・22-25）

衣服をはぎ取られ、それまでの名望を失い、ユダヤ人の指導者たちの前に、またローマ総督の前に、要するに個人的にも社会的（宗教的・政治的）にもはまったくの無力なキリストの哀れな姿は、まさに無一物の状態を体現していると言えるのではないだろうか。

ここで、無一物の状態と無の状態を、伝統的に理解されている二種の離脱の状態として理解していくことは、助けになるのではないかと思われる。前者は、この世からの離脱であり、後者はそれを成就している自分自身からの離脱である。前者なしの後者は虚偽であり、後者なしの前者は未完成である。どこかに嘘がつきまとうのである。

（続く）



## 十字架の聖ヨハネのこぼれ話 (158)

ホセ・ヴィセンテ・ロドリゲス o.c.d.

### 私たちが訪ねるとのことです⑤

またマルティン修士の供述も、同様に説得力のあるものです。次の話は、旅行記のようなものと見なせるでしょう。

「本証人が思い出すのは、コルドバの町にいた時、くだんの聖人が、本証人に、七人の修練者と一人の助修士をセビリアの町へ連れて行くよう命じたことがあります。出発したかったのですが、旅の間、修練者たちが必要とするものを何もくれないのを知って、本証人は聖人に、『どんなことをしてもそんなに長い旅はできないでしょう、修道者たちに必要なものを持って行かないならば』、と言いました。その時、聖人は、彼にこう答えました。『私たちの主なる神に大きな信頼を置きなさい。神が解決してくださるだろう』と。そこで本証人は、『一人で行くなら、何も願わなかったでしょう。けれども、七人という大勢の人たちを連れていくのですから』と答えました。

その時、聖人は彼に、いくらかの旅の糧として半ダースのパンといくつかのザクロを与えるように命じました。この証人は歩いて、修練者と共にグアダルカサル修道院に着きました。大勢の修練者が入っていくのを見た、その地の貴族は、修道院に来て、本証人にどこまで歩いていくのか尋ね、またこれらの修練者をどのようにセビリアの町へ連れていくのかと言い、『あなたはさぞ大金を持っておられるのでしょうか』と言いました。そこで、証人は彼に、『財布もお金も持っていません。私たちの主である神に信頼していますから。また私がコルドバを出る時に、旅には何も不足しないだろう、むしろたくさん余ってもどってくるだろうと言った聖なるヨハネ修士の言葉に信頼していますから』と答えました。その後、グアダカサル貴族は、その館から彼にドブロン金貨2枚を送ってきました。そこからエシッハの町へ行き、旅籠に着くと、サンティアゴの修道服を身にまとった騎士を見つけました。彼は、この証人と他の者たちに贈り物をくださいました。それからフエンテスに着くと、その地の貴婦人はこの証人に使いを送ってきて、どこの会の修道者なのかと問い、また彼に会いに来たいと、言ってきました。本証人は、それはできないと答えました。『彼らは修練者だから、彼らだけにしておくことはできない。帰りにはお会いできるでしょう』と。この貴婦人は、彼にレアル銀貨50枚を送ってきました。翌日彼は、カルモナへ出発しました。

(P. 九里訳)

## キリストの聖体 (B)

(マルコ 14:12-16、22-26)

本日、私たちは「キリストの聖体」(コルプス・クリスティ)の祭日を厳粛にお祝いします。この祭日は契約の印としてエウカリストを強調します。私たちは聖木曜日(洗足式)で「聖エウカリスト」の制定を祝いますが、教会は以前「コルプス・クリスティ」と呼ばれる特別の祭日を重要視しています。

イエスは、「最後の晩餐」の間に「聖エウカリスト」を秘跡の正餐として、また犠牲の捧げものとして制定されました。秘跡として「聖エウカリスト」は、私たちとそのいのちを分かち合ってくださいと、私たちがその中で、そしてそれによってイエスと出会う外面のしるしです。このように「聖エウカリスト」は、私たちの心の中にあるイエスの不変の現存を私たちに伝えています。私たちはイエスの「神的いのち」を分かち合うようになります。エウカリストはイエスと私たちとの絆の秘跡です。イエスは、十字架上で私たちのため砕かれたイエスご自身の御体と私たちのため流された尊い御血を、私たちの罪の赦しのために与えてくださいます。私たちはキリストの受難、死、復活にあずかるのです。

すべてのエウカリストは共同体においてとりおこなわれます。共同体で祝うこの「相互犠牲の食事」において、私たちはいけにえ、祭壇、そして司祭であるイエスの現存を持ちます。キリストはこの世の和解のためにご自身を特別のささげ物として御父に捧げます。世を救うためのイエスの最終的な使命の完成として、エウカリストは共同体の中でともに捧げられます。この共同体的分かち合いの中で、皆がキリストの兄弟姉妹であり、天の御父の子どもです。「聖三位一体」のうちに私たちを共に結びつける愛に溢れた絆です。エウカリストに参加するときいつでも、私たちは「聖体拝領」にふさわしくあるように、そしてこの世でキリストの一致と慈しみをもたらすキリストの道具となれるように、恵みを求めます。

新型コロナウイルス(Covid-19)のパンデミックの渦中にあります。教会は閉じられ、ミサに参加できず、「キリストの御からだ」を頂くこともできません。ですから、キリストにもっと近づき、心の中で霊的にキリストを頂くために霊的聖体拝領を致しましょう。

(Sr. Paulina)

## 年間 第11主日

(マルコ4 : 26-34)

今日のみことばですが、イエスが再び湖のほとりで教え始められた後の場面の話で、イエスが「種を蒔く人」のたとえを群衆になさり、その解説を十二人と一緒にイエスの周りにいた人たちにされ、「ともし火」「稗」のたとえを話された後のたとえ話です。

「種を蒔く人」のたとえの後の「種」のたとえですが、それは「成長する種」であり、最初のたとえ話ではお話になられなかった、「神の国」についてのたとえ話になります。そして同じく「神の国」についての話、「からし種」のたとえへと続いてゆきます。

神の国は成長する。そのことをイエスは、成長する種のたとえでお話になりました。確かに私たちの経験からも、土に種を蒔いて水をやり、日が経ってじっと待っていると、いつの間にか種は地中で芽を出し、成長してやがて地表から顔を出してすくすく伸び、やがて花が咲き、実を結んで実が成り、収穫の時間が訪れると刈り入れとなってゆきます。

どうしてそうなるのかその人は知らないと語られますが、そこに神の働きがあります。恵みを注いで下さる神様の恵みを受けて、その種は大きく成長してゆくのでしょうか。人もその成長に向けて働きながら、神の働きの中で豊かな収穫を待ち望むのでしょうか。神様とともに。

そして神の国のたとえがもう1つ。最初の種は具体的な種の名はありませんでしたが、今回は「からし種」。実際に目にすることのできる種。どんな種よりも小さいと言われるその小さな小さな種が、大きくなってゆく様が語られてゆきます。そして葉の陰に空の鳥が巣を作れるほど大きな枝を張る様に成長してゆく、そのイメージが私たちの頭の中、心の中に広がってゆくのではないのでしょうか。

私たちのこの世界に、私たちのうちに始まっていく、すでに始まっている「神の国」。私たち一人一人の中でも神の国、神の支配が始まり、成長している途中なのでしょうね。私たちは気づいていても、気づいていなくても、神の恵みを受け、神の恵みをいただき、歩んでいます。成長する様に、実を結ぶ様に・・・と神は私たちに望んでおられます。収穫の時、良い実を結びます様に、良い実が熟します様に、神からの恵みと慈しみの中で、私たちが、私たちのうちに始まっている神の国が大きく成長してゆきます様に。

(Fr. 古川利雅)

## 年間 第12主日 (B)

(マルコ4 : 35 - 41)

*なぜ怖がるのか。まだ信じないのか。*

人生の危機はよく嵐にたとえられます。私たちが望もうが望むまいが危機は襲いかかってきて、私たちを恐怖に陥れて打ち倒し、安心や安全を根底からおびやかします。自分が危機を生き延びることができるか、そしてそれがどれくらい続くのかも分かりません。これは、本日の福音箇所と同じような状況です。

本日の福音では、イエスは、弟子たちを連れて群衆から離れ、ガリラヤ湖を渡るために舟に乗ります。湖とその周辺は、イエスの教えと奇跡の場所です。

ここでは、急な嵐に対する弟子たちの恐怖とイエスの平和とが大きく対比して描かれています。イエスは嵐に動揺せず平和のうちに眠っています。弟子たちは嵐が起こったこととイエスとその最中にも静かに眠っていることの両方について気が動転しています。イエスは自分たちがおぼれてもかまわないのだらうと思っています。しかし、イエスが奇跡的に嵐をしずめると弟子たちは大いに驚き、イエスが持つ神の救いの力を徐々に理解し始めます。

本日の福音にはとても大切なメッセージがあります。私たちの人生はまさに、「永遠のいのち」という向こう岸を目指して、時間の海を渡る旅路です。その道中、多くの嵐に遭遇します。現在、全世界と教会は、致命的なパンデミックの激しい嵐に見舞われています。私たちは、強い信仰をもって、平和と安全とパンデミックからの解放をイエスに祈ることができるでしょうか？ 私たちの間におられる、神であるキリストの存在を体験できるでしょうか？ イエスは世の終わりまで私たちと共にとどまり、私たちを世話してあらゆる危険から守ると約束されました。私たちの問題や苦難のすべては、日々、キリストをもっと近くに見出すための助けとなるでしょう。

*(Sr. Paulina)*

## 年間 第13主日

(マルコ5 : 21 - 43)

十二年間も出血の止まらない女が、すぎるような気持ちで後ろからイエスの服に触れました。すると、すぐに出血は止まり、病気は癒されてしまいました。そのとき、イエスの方も自分の中から力が出て行くのを感じました。イエスは自分に触れたのは誰かと探し回ります。弟子たちは、こんなに大勢の群衆の中では誰だか分かるはずがないと言いますが、イエスはそんな弟子には耳も傾けずにあたりを見回し続けます。

イエスは、その人の病気が癒されたことを直感したはずですが、「良かったな」と思われたでしょうが、さらにその人との出会いを求めたのです。それに気づいた女は、おそるおそる進み出てイエスに直面し、「すべてをありのまま話し」ました。自分を隠さずイエスに話し、イエスはそれを受けとめました。そしてイエスは言われました。「娘よ、あなたの信仰があなたを救った。安心して行きなさい。もうその病気にかからず、元気に暮らしなさい」。

もし、女があのまま帰ってしまっていたら、イエスとのこのような出会いはありませんでした。体だけが治っても、イエスとの出会いから湧き出る安心、心の喜び、活力は体験することができなかつたはずですが。イエスとの目と目を合わせた対話。イエスにありのままを受けとめてもらえる喜び、慰め。これまでの悲しい人生に共感してもらえ、それによって心が癒され、新たにされていく体験ができたのは、このイエスとの人格的な出会いがあったからです。女はその後もイエスを信じ、信仰のうちにイエスと共に生きたことでしょう。初代教会の中にその姿があつただろうと思います。

女は病気が治ったから救われたのではなく、信仰をもってイエスと出会ったから救われたのです。「あなたの信仰があなたを救った」。その出会いは、その後の人生においても大きな希望の源となり、女を生かし続けたのです。

イエスは私たちにも、それぞれ出会いを求めて待っておられます。ご自分のもとに来て、すべてをありのままに話してくれ、より頼んでくれるのを喜んでくださいます。「わたしを信じる人は、その人の内から生きた水が川となって流れ出るようになる」(ヨハネ7・38)。イエスとの人格的な出会いを深め、親しく生きる人は、いつも内側から新鮮な力が湧き出で、前に向かって歩いていくことができるのです。

(今泉健 神父)



# いのちの言葉 6月

わたしに向かって、『主よ、主よ』と言う者が皆、天の国に入るわけではない。わたしの天の父の御心を行う者だけが入るのである。

(マタイ7・21)

マタイ福音書にあるこの言葉は、「山上の説教」の後半部分で語られるものです。「幸いな人」（とはどのような人であるか）について説いたのち、イエスは聴衆に向かって、神様は愛の内に人間を見守っておられることを知ってほしいと招きます。み旨を行うことこそが、御父との完全な交わりに至る近道だと気づいてほしいと。

わたしに向かって、「主よ、主よ」と言う者が皆、天の国に入るわけではない。

わたしの天の父の御心を行う者だけが入るのである。

では、神のみ旨とは何でしょうか。どうすればそれを知ることができるのでしょうか。

キアラ・ルービックは、自らの発見をこのように語っています。

「神様のみ旨とは、絶えず私たちに語りかけ、私たちに招く神様の声のことです。一本の糸というか、むしろこの地上においても、またそのあとも、私たちの生涯全体を編み上げていく神聖な一本の金の糸のようです。み旨とは、神様ご自分の愛を表現なさるための手段です。けれどもその愛は、私たちの応えを必要としています。それは、私たちの人生の中で神様が素晴らしいご計画を成就なさるためなのです。神様のみ旨とは、私たちのあるべき姿、私たちの本当の姿、私たちが完全に自己実現された姿です。(…)

では毎瞬間、あらゆるみ旨の前で、それが苦々しいものであっても、喜ばしいものであっても、あるいはどちらとも言えない場合にも、『み旨のままに』と繰り返すよう努めましょう。(…)

この単純な一言が、大きな力となって、私たちがしなければならない事を、愛をもって、完全に、献身的に果たすための、踏み台となるでしょう。(…)

こうして私たちは、神様が一人ひとりのために永遠から考えてくださった、素晴らしく、ユニークで、他には見られない、人生のモザイク模様を、瞬間、瞬間編み出していくことになるでしょう。自然の壮大な美しさの中で、色とりどりの、小さな花にも意味があり輝いているように、神様の無限で偉大な美しさの中においては、小さな愛の行いのように、どんな小さな部分でも意味があり、輝きをもっているのです。」1

わたしに向かって、「主よ、主よ」と言う者が皆、天の国に入るわけではない。

わたしの天の父の御心を行う者だけが入るのである。

マタイの福音書に読み取れるのは、キリスト者の最も重要な掟は「憐れみ」にあり、それこそがあらゆる神への礼拝、愛の表現を完全なものとしてくれるということです。

このみ言葉は、具体的な行動に移すことによって、神様との私たちの関わりを、個人的なものから、きょうだい愛に開かれたものに変える助けとなるでしょう。和解と希望を人々にもたらすために、自分の殻を出て「外に出かけていく」よう促してくれます。

ドイツのハイデルベルクに住む若者たちが、体験を伝えてくれました。「幸せになるための鍵は、他の人に自分を与えることだと、どうしたら友人たちに体験してもらえるでしょうか。私たちは、『幸せの1時間』と名付けた活動を始めました。とてもシンプルなもので、月1回、少なくとも1時間、誰かを喜ばせようというものです。私たちはまず、最も愛を必要としていると感じる人たちから始めました。私たちが協力を申し出たところはどこでも、大きく門戸を開いてくれました。公園でお年寄りの車椅子を押して散歩したり、小児病院で子どもたちと遊んだり、障害のある方たちとスポーツをしたりしました。みんなとても喜んでくれましたが、活動の趣旨のとおり、私たちの方がもっとうれしくなりました。誘った友人たちはどうだったでしょうか。始めは好奇の目で眺めていましたが、他の人に幸せを与える体験を通して、今では私たちと同じように『幸せとは与えるもので、そうすれば自分も味わうもの』と考えてくれるようになりました。」

レティツィア・マグリ

1 キアラ・ルービック、1992年2月27日コレガメント（電話会議）での講話

連絡先：フォコラーレ 東京 03-3330-5619/03-5370-6424 長崎 095-849-3812

E-mail:tokyofocfem@gmail.com

ホームページ: <https://www.focolare.org/japan/>

## 跣足カルメル修道会HP (International)

跣足カルメル修道会ローマ本部のホームページ <http://www.carmelitaniscalzi.com>  
の記事を紹介します。

<< Communications (時事通信) >>

2021年4月30日

### 教皇フランシスコ、教皇庁奉獻・使徒的生活会省のコンサル タントに跣足カルメル会ファミリーの二人の修道者を任命



教皇フランシスコは、教皇庁奉獻・使徒的生活会省のコンサルタントに跣足カルメル会ファミリーの二人の修道者を任命されました。そのひとりには、スペインのアルバとビラガルシア・デ・カンポの女子跣足カルメル修道院の院長で、女子跣足カルメル修道会連合会長のマザー・エルサ・カンパです。

☆マザー、貴方のことを知らない人のために自己紹介をお願い致します。

マザー E.C. : 私はエルサ・カンパ (イエスの聖心のエルサ) です。スペイン北部のアストゥリアス州の小さな村で生まれました。1982年7月10日にこの州の首都オビエドの女子跣足カルメル修道院に入会しました。初誓願は1985年1月12日で、1988年1月10日に莊嚴誓願を立てました。

☆この度の貴方への任命は女性として、また跣足カルメル会修道女としてどんな意味があると思いますか？

マザー E.C. : 女性としては、教会がだんだん私たち女性に信頼を置き、考慮するようになり、また教会が私たちの声を聴きたいと思い、世々にわたって女性が教会と社会で取り組んでいる全てのことを認識するのは、大切なことです。跣足カルメル会修道女としては、既に多忙な日々を送っている私にとって更なる仕事と心配な事になります。でも、私自身のことを超えて、この指名は私たちの会が認められて、光栄を受けたのだと思うと喜びで胸がいっぱいです。

そして教皇フランシスコは、去る4月11日にデニ・シャルドネ神父を同職に任命しました。彼は、スイス出身の跣足カルメル修道会アヴィニョンーアキテーヌ管区のメンバーで、ローマ教皇庁立テレジア大学神学部と霊性研究所の前学部長で、三位一体論、教義神学、霊性基礎神学を教えています。

跣足カルメル修道会のお二人、“この度のご任命まことおめでとうございます。”  
私たちは、お二人のためにお祈りいたします。

(小宮山延子訳)

## 糸巻き棒からペンへ(65)

現代人のためのイエスの聖テレジアの教え

エドゥアルド・サンス OCD

男性たちの間に理解を見出すことができなかつたので、天上へと祈りを向けました。「これらの靈魂のいくつかなりと主のために獲得できる手段をお与えくださるよう、涙ながらにお願いしたのです。私たちの主への愛のためにこれらのことに従事できる人々をとてもうらやましく思いました。聖人伝の中で、聖人がたが人々を回心させた話を読みますと、私は彼らが忍んだすべての殉教の話を読むよりも、信心と愛を覚え、うらやましく思いました」(『創立史』1,7)。彼女は、キリストを知らせ、福音を宣教し、人々の靈魂に愛の種をまくために働きたいと願っていました。そこで信仰をおおやけに告げ知らせることのできる宣教師たちや司祭たちをうらやましく思ったのでした。

その時、キリストの言葉がありました。「娘よ、今しばらく待ちなさい。あなたは偉大なことを見るであろう」(『創立史』1,8)。テレジアは、その言葉が何を意味するのか思いもよらなかつたにもかかわらず、彼女の心に刻まれ、消え去らなかつたと述べています。それが実現されるだろうとは分かりましたが、どのようにしてかは予想もできませんでした。この謎は、数か月後遅れて、明らかとなりました。

そうこうしてうちに、トレント公会議の最終会期に、聖職者や修道者の生活を刷新するための勅令が起草されました。1567年、その少し前に教皇に選出されたピオ5世は、それを実施するようにと急がせました。同じ年、イタリアから、修道会の総長、ホアン・バウティスタ・ロッシ(ラテン語化された姓は、ルベオ。聖女は常にこちらを使いました)がやってきました。「それは、以前にはまったくなかつたことです。総長はいつもローマにいましたから」と聖女は語っています。

聖女はその知らせを恐れもって受け取りました。というのも総長は彼女の行動を無にすることができたのですから。ところが、彼女は彼の内に理解と支持を見出しました。それどころか、「頭の髪の毛のようにたくさんの修道院」を創立する許可を、彼女に与えました。こうして15年間の間に、大変な困難と反対の遭いながらも、17の女子修道院と15の男子修道院を、創立するというヘラクレス的な仕事が始まったのです。

(P.九里訳)

# カルメル誌 新刊案内



## 2020年 冬号 No.379

\*\*\*《現代に生きる祈りの伝統》\*\*\*\*\*

桐生聖クララ会—新しい修道会、新しい生活  
シスター・マリア・イルミナータ

\*\*\*\*\*

信仰生活(再)入門(12) 聖書に学ぶ祈りの道(4)  
—現代のための神のみことば、テレーズとともに②

片山はるひ  
道の霊性(4)—幼い者の隠れた道 田畑邦治

キリストに伴われて季節を巡る(12)  
—クリスマスの歎び 伊従信子

クリスマスメッセージ 二〇二〇  
ポーリン・フェルナンデス

カルメル会の会則に見る  
アシェーシスと修道生活(12) 九里 彰

霊的研究会講義録(10)—聖書・祈り・愛について  
奥村一郎



## 2020年 特集号

「すべてのいのちを守るため」  
—フランシスコ教皇のメッセージ—

神の愛といのちの福音を次世代に  
松田浩一

教皇フランシスコの説く「平和への道」  
九里 彰

司牧者のかがみ 教皇フランシスコ  
今泉 健

教皇フランシスコならではの視点と光  
—寄留者の尊厳  
大瀬高司

ご案内 1冊 520円 A5サイズ 50~70ページ

サンパウロ・ドンボスコ書店・イグナチオ教会案内所・上野毛教会信徒ホール本コーナー・  
各カルメル会黙想の家 他にてお求め下さい

●送付ご希望の方は、700円【520円 (+送料 180円)】程度の献金を下記へお振込み下さい

●年間での継続送付ご希望の方は、年会費(年5冊:春夏秋冬+特集号 計 3,500円)を  
下記へお振込み下さい

郵便振替:00190-4-195457 跣足カルメル修道会

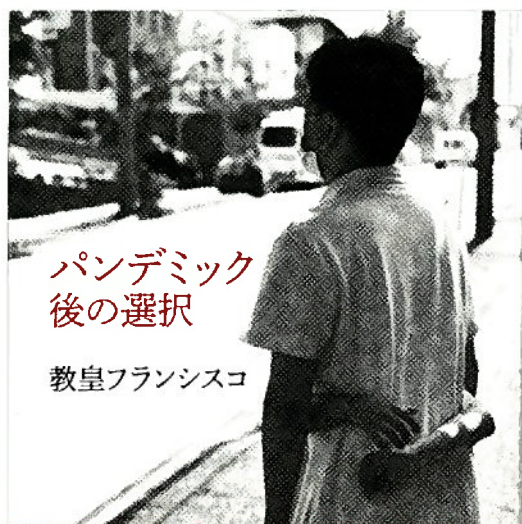
※2021年度より料金が変わります(1冊 580円 年間購読 3,600円)

●お問い合わせは、事務担当:内田幸子宛に上野毛修道院へ手紙かファックス、又はe-mailで。  
〒159-0093 世田谷区上野毛 2-14-25 Fax: 03-3704-1764

E-mail: carmelshi.iimu@gmail.com



# 書籍案内



## パンデミック 後の選択

教皇フランシスコ

無関心のグローバリゼーションは、わたしたちをその歩みにおいて危険にさらし挑発し続けます。どうかわたしたちが、正義と愛と連帯という必須の抗体を見いだせますように。

COVID-19 という人類の危機から生まれうる、貧しい人、弱い立場にある人を中心にした、新しい世界を築くための手掛かり。

カトリック中央協議会

## 『パンデミック後の選択』

著者：教皇フランシスコ

判型：四六・並製

ページ数：80 ページ

価格：本体 500 円（税込 550 円）

ISBN：978-4-87750-224-9

出版社：カトリック中央協議会

バチカン出版局より刊行された Life After the Pandemic の邦訳。パンデミックに言及する 8 つの文書を収録。高い感染リスクにさらされながらも他者に献身する人々や、収入が絶たれたり、在宅要請を守るのが難しかったりする弱い立場の人々に心を寄せつつ、困難な試練を新しい選択への好機に変えるよう励ます。単にパンデミック以前を取り戻すのではなく、連帯を示し、もっとも傷つきやすい人を中心にした社会を構築すべきとの呼びかけ。

### 目次・内容

- 序（マイケル・ツァーニー枢機卿, SJ）
- なぜ怖がるのか（特別な祈りの式におけるウルビ・エト・オルビのメッセージ、2020年3月27日、サンピエトロ大聖堂前にて）
- コロナ後への備えの重要性（ロベルト・アンドレス・ガラルド氏あて書簡、2020年3月28日付）
- 新たな炎のように（2020年復活祭ウルビ・エト・オルビのメッセージ、2020年4月12日、サンピエトロ大聖堂にて）
- 目立たぬ兵士たち（草の根市民運動あて書簡、2020年4月12日付）
- 再起計画（雑誌 Vida Nueva（新しい生）への書き下ろし、2020年4月17日）
- エゴイズム——より悪質なウイルス（復活節第二主日（神のいつくしみの主日）説教抜粋、2020年4月19日、サントスピリト・イン・サッシア教会にて）
- ストリートペーパー関係者へ（2020年4月21日付書簡）
- 地球規模の問題を乗り越える（第50回アースデイについての一般謁見講話抜粋、2020年4月22日）
- 付録（マリアへの祈り一、二）
- あとがき

## 新書紹介

十字架の聖ヨハネ理解のための

待望の書 翻訳刊行



## 『十字架の聖ヨハネの霊性』

フェデリコ・ルイス師の講話  
〈十字架の聖ヨハネ・霊性神学研究の第一人者〉

著者：フェデリコ・ルイス

訳者：九里 彰

判型：B6 判並製

ページ数：184 ページ

価格：本体 1,600 円+税

ISBN：978-4-8056-3918-4 C0016

発行：サンパウロ

スペインで「詩人の守護聖人」と称される十字架の聖ヨハネは、日常生活の中で神との親密な関係を生き、キリストと、隣人との愛の交わりを生きた聖人でした。自身の神体験を詩で表し、自らそれを解説し、著作として残しています。彼は決して近寄り難い人物だったわけではなく、バランスの取れた温厚な人でした。

インターネットや AI が発達する、「霊性の時代」といわれる現代において、神との出会いを生きる真の意味を、十字架の聖ヨハネの思想、生涯の中に探ることができます。

十字架聖ヨハネを正しく理解することは、霊性を正しく理解することの基礎となっていくます。

フェデリコ・ルイス・サルバドル

1933 年スペイン、バレンシア生まれ。1950 年跣足カルメル修道会入会。

1957 年司祭叙階。ローマ・カルメル会国際神学大学テレジアヌム教授。

2018 年 10 月 27 日マドリードにて帰天。享年 85 歳

九里 彰

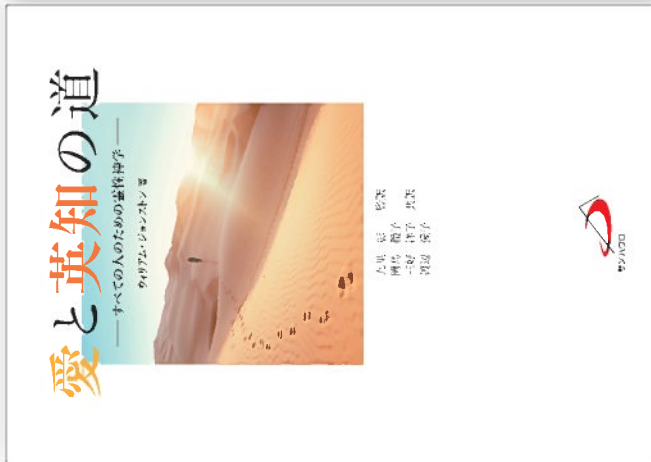
カイルメル修道会司祭。1981 年上智大学大学院哲学専攻、博士後期課程修了。1990 年カルメル会入会。1997 年司祭叙階。1999~2002 年スペイン留学。カルメル修道会 元日本地区総長代理。現在、金沢広坂修道院院長

# 愛と英知の道

—すべての人のための霊性神学—

ウィリアム・ジョンストン 著

九里 彰 監訳  
岡島 禮子 三好 洋子 渡辺 愛子 共訳



西洋と東洋の神秘主義の伝統に通暁した著者が、21世紀というグローバル化し、「地球家族」となった現代世界のすべてのキリスト者に遺した霊的生涯の道しるべ。「すべての人は、聖職位階に属している人も、あるいはそれによって牧されている人も、皆聖性へと召されている。『あなたが聖なる者となること、これが神の望みである』と使徒が言っているとおりである」（『教会憲章』39）。

本書は、十字架の聖ヨハネが16世紀に向けてなしたことを、21世紀に向けて行なおうとする、ささやかな試みです。言いかえると、その目的は、命の水を渴望する人たちへ、観想的な祈りを教えることです。筆者は、主にキリスト信者を念頭に置いて筆を進めますが、真理の探究において私と心をもと心一つにし

## 第一部 キリスト教の伝統

- 第1章 福音書(1)
- 第2章 福音書(2)
- 第3章 理性対神秘主義
- 第4章 神秘主義と愛
- 第5章 東方のキリスト教
- 第6章 愛を通して生まれる英知

## 第二部 対話

- 第7章 科学と神秘神学
- 第8章 修徳主義とアジア
- 第9章 神秘主義と根源的なエネルギ
- 第10章 英知と(空)

## 第三部 現代の神秘的な旅

- 第11章 信仰の旅
- 第12章 浄化の道
- 第13章 暗夜
- 第14章 (愛のうちにある)
- 第15章 花嫁と花婿
- 第16章 一 致
- 第17章 英知
- 第18章 活動
- 第19章 社会活動の神秘主義

ウィリアム・ジョンストン William Johnston S.J. (1925-2010)

北アイルランドのベルファストに生まれる。

イエズス会に入会し、26歳で来日。

32歳で司祭に叙階され、以後、英語、英文学、宗教学を上智大学などで講じる。また、東西の宗教思想、特に神秘主義の研究と普及に尽力。パドロー・アルベ、トマス・マートン、ダライ・ラマ、永井隆、遠藤周作との出会いを通して、次々と著作を発表。現代に則した霊性探求の先駆者として、世界に広く知られている。85歳で帰天。







# 書籍案内

## 生きる意味

### ●キリスト教への問いかけ

清水正之・鶴岡賀雄・桑原直己・釘宮明美 編

A5判・312頁・2500円+税

ISBN978-4-87232-100-5

東日本大震災と原発事故によって喚起された「生きる意味」という愚直な問い。その答えを示すことこそが、「宗教」である。グローバル化に伴う経済格差、労働のあり方、宗教の役割など——危機にさらされている人間の救済の道を探る。

#### ———目次———

- 序 「生きる意味への問いかけ」がなされる場をめぐって／鶴岡賀雄
- 1 東日本大震災と宗教／中下大樹
- 2 宗教と社会と自治体の災害時協力／稲場圭信
- 3 東日本大震災に思うこと／佐藤純一
- 4 脱原発の倫理／久保文彦
- 5 何のために働くのか／神谷秀樹
- 6 グローバル化する経済の中の人間／勝俣 誠
- 7 私たちの社会に希望はあるか？／宮台真司
- 8 関係の倫理学／清水正之
- 9 宗教が医療・医学に果たした役割、果たすことが期待されている役割／加藤 敏
- 10 V・フランクルのロゴセラピー／桑原直己
- 11 「神の子となる」——カルメルの霊性と共に／★九里 彰★
- 12 「おかげさま」の言語化と生き方による霊性化／中野東禅
- 13 エディット・シュタイン『十字架の学問』への道とその霊性／釘宮明美

オリエンス宗教研究所 TEL:03-3322-7601 FAX:03-3325-5322

ご注文は全国のキリスト教書店、オリエンスHP、FAX、ネット書店などへ

# 2020年のご案内

年間テーマ 手をとりあい、白ら歩み出す



大瀬高司 師

好評の2019年の連載「カトリックの信仰を生きた愛国者・ステファノ山本信次郎」に引き続き大瀬高司神父の新連載が始まります。

●近代日本の歩みとカトリック教会  
——山本信次郎研究ノートより  
大瀬高司（カルメル修道会司祭）

山本信次郎研究で得られた成果から、近代日本のカトリック教会での出来事や人物を取り上げ、これまであまり知られていないエピソードを中心に紹介します。

## その他の新連載

- アンジェラスの鐘／加藤美紀（教育学者）
- 知恵ある者たちのアフォリズム／加藤久美子（聖書学者）
- かたわらに、今、たたずんで／大野高志（日本基督教団牧師）
- 聖歌と賛歌——民衆霊性と多様性から  
杉本ゆり（中世教会音楽研究者）
- 新米神父の開拓奮闘記／大西勇史（広島教区司祭）
- いのちの交わりの場——エコロジカルな暮らしのために  
吉川まみ（環境学者）

## 継続連載

- 典礼暦と季節の味わい（応用編）  
柳谷晃子（食文化研究所主宰）



## 月刊『福音宣教』お申し込み方法

◇郵便局に備えつけの振替用紙にて年間定期購読料を下記口座までお振り込みください。ご入金確認後、発送いたします。

- 口座番号：00170-2-84745
- 加入者名：オリエンズ宗教研究所
- ご購読料：7500円（税・送料込）
- 備考欄：「福音宣教～月号から」とご希望の開始月をご明記ください。ご指定がなければ、最新号からお送りいたします。

年間定期購読料（年11回、8・9月合併号）7500円（税・送料込）一部定価600円＋税

オリエンズ宗教研究所 〒156-0043 東京都世田谷区松原 2-28-5  
Tel 03-3322-7601 Fax 03-3325-5322 <https://www.oriens.or.jp/>





福者マリー=ユジェーヌ神父に導かれて  
十字架の聖ヨハネの  
**ひかりの道をゆく**

伊従 信子 編・訳

ISBN978-4-88216-372-5 C0195

定価**540**円(税込)

【聖母文庫】 **287**

**第2版  
好評発売中!**



マリー = ユジェーヌ神父が十字架の聖ヨハネ  
を生き、体験し、確認した教えなのです。  
ですから、十六世紀の十字架の聖ヨハネの  
教えは現代の人々にも十分適応されます。  
また、神の命を伝え、実践的手段を示して  
聖性の最も高い段階へと導こうとする彼の  
配慮が伝わってきます。(「はじめに」より)

神と親しく生きる  
**いのりの道**

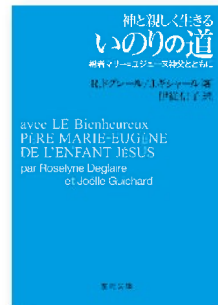
福者マリー=ユジェーヌ神父とともに

R. ドブレール / J. ギシャル 著

伊従 信子 訳

ISBN978-4-88216-307-7 C0195 【聖母文庫】 **246**

定価**540**円(税込) 209頁



わたしは神をみたい  
**いのりの道をゆく**

マリー=ユジェーヌ神父とともに

伊従 信子 編・著

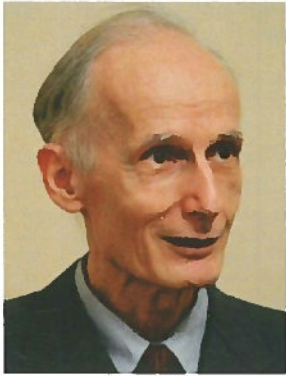
ISBN978-4-88216-339-8 C0195 【聖母文庫】 **268**

定価**648**円(税込) 281頁



ご注文・お問い合わせ先

**聖母の騎士社** ☎850-0012 長崎市本河内2-2-1  
TEL.095-824-2080 FAX.095-823-5340



## クラウス・リーゼンフーバー小著作集

(全五巻) 四六版・434頁～628頁

各巻 本体 3,800～5,000 円+税

著者は日本における中世哲学研究を牽引し、広汎にわたるキリスト教思想史の著述や編集・出版を手がけてきた。宗教家としても、キリスト教信者のみならず信仰に初めて出会う一般社会人と広く向き合い、講座や黙想会などを開いてキリスト教の精神と実践、信仰における超越との関わりを伝えている。人間の自己理解から出発し、聖書と哲学的な理解とを構築して、キリスト教信仰と霊性を現代人にとって生き生きとした形で展開している。講義、執筆活動をとおして西洋古代・中世さらに現代哲学思想をわかりやすく説く。この著作集は40余年の著述活動による150余の小論考からなっており、霊的な信仰理解と人間の経験とを結びつけて互いに支え合うものとして示そうとするものである。

人生の意義の解明と存在への問い。人生をめぐる哲学的・思想史的・人間論的な諸観点のもとで、聖書に基づいて第一根源である神を中心に展開する。

		ISBN
第1巻	<b>I 超越体験 一宗教論</b> 宗教の人間論的基礎付けを「意義への問い」という観点から考察した宗教哲学論文集。宗教的理解と経験がキリスト教的精神に基づいて絡み合い、人間の心を考察して全体の根源的な起源へ向ける。全11作、434p	定価(本体+税) 9784862852151 3,800 円+税
第2巻	<b>II 真理と神秘 一聖書の黙想</b> 日常生活を貫いて人間とかわる絶対的神秘を、聖書を紐解きつつ多面的な観点から浮き彫りにする。超越との関係を求める人に向けて、宗教的経験を解明する。全35作、544p	978-4862852175 4,600 円+税
第3巻	<b>III 信仰と幸い 一キリスト教の本質</b> 主の祈り、信条の命題に沿って信仰の全体像を解説。「山上の説教」をとおして人生における艱難辛苦にも焦点を合わせる。十字を切ることの意味など、聖霊の神学と霊性から信仰生活の深みを照らす。全38作、628p	9784862852205 5,000 円+税
第4巻	<b>IV 思惟の歴史 一哲学・神学的小論</b> 古代から中世のキリスト教思想史の考察の上に立脚し、現代における信仰をめぐる根本的な問いを洞察する。人間と神理解の可能性を新たに広げて信仰生活の深みに掘下げる。全41作、448p	9784862852212 4,000 円+税
第5巻	<b>V 自己の解明 一根源への問いと坐禅による実践</b> 信仰との関わり合いの薄い現代人に向け、自己への問いから発した人生の意義と超越への方向付けを見出す実践的な道筋を示唆する。「今」を中心とする存在論・時間論を展開した最終講義「時間です!」収録。全35作、470p	9784862852229 4,200 円+税

### ●リーゼンフーバー、クラウス [Riesenhuber, Klaus]

1938年ドイツ生まれ。1958年イエズス会入会。1967年ミュンヘン大学哲学博士。同年来日。1969年上智大学文学部哲学科専任講師。1971年東京で司祭叙階。1974年上智大学中世思想研究所所長(～2004)。1981年上智大学教授。1989年上智大学神学博士。国公立大学で客員・非常勤講師。放送大学客員教授。2009年上智大学名誉教授。現在は哲学的人間論および宗教哲学などの講座を開講。

知 泉 書 館

〒113-0033 東京都文京区本郷 1-13-2 TEL: 03-3814-6161 FAX: 03-3814-6166

<http://www.chisen.co.jp>





# 奥村一郎選集

## 追悼 奥村一郎師

その時と場所で与えられた役割を  
誠実に果たし続けた師が遺す珠玉の名編

四六判・上製・平均 240 頁・各巻とも **本体 2000 円**+税

日本の文化の中で福音が豊かに開花することを求めて祈り、思索した奥村一郎師。本選集は半世紀にわたるその膨大な著作、講演等の記録から特に重要と思われるものを選び、テーマ別に集成したものです。豊かな霊性をたたえた祈りの人であり、東西霊性交流など宗教対話のダイナミックな推進者。静謐さと情熱を併せ持つ著者が紡ぎ出してきた言葉の数々は、神と人に真摯に向かう姿を私たちに示してくれます。ときにユーモアを交えたその視座は、日本における福音宣教を願うすべての人々にとっての道標となることでしょう。

第1巻



### 慈悲と隣人愛 解説・西村恵信

日本文化に影響を与える仏教の光を当てつつ聖書を読み、キリスト教の本質理解に近づく。カトリックから禅へ／小事と瑣事／禅とキリスト教における靈的修行

第2巻



### 多文化に生きる宗教 解説・橋本裕明

宗教対話と霊性交流から得られた柔軟な視点から、日本での新たな宣教の可能性を示す。大いなる贈け——宗教対話／日本人とキリスト教——遠藤文学の魂

第3巻



### 日本の神学を求めて 解説・小野寺 功

日本の地に根ざす神学、その開花の可能性を福音の原点である相互愛から問いかける。日本の神学——根源への問い／相互愛／「信ずる」と「愛する」／新しい旋

第4巻



### 日本語とキリスト教 解説・阿部仲麻呂

関係性を重視する表現が中心となる日本語を手がかりに、ことばと信仰の関係を再考する。日本人の心とその精神構造／「ことば」から「みことば」へ／聖書と翻訳

第5巻



### 現代人と宗教 解説・鶴岡賀雄

宗教不在とされる現代、人々が直面する課題にキリスト教はどう向き合っているのか。現代人とキリスト教／偶像の喪失／退屈／「新しい人」としての真人

第6巻



### 永遠のいのち 解説・八木誠一

生と死、罪と恵み、正義と愛——人間の栄光と悲慘を見極め、永遠のいのちへの道を探る。嬰兒復帰／人間の栄光と悲慘／神は死せり／十字架の秘義／人間と世界と神

第7巻



### カルメルの霊性 解説・高園泰子

愛ゆえにすべてを、命さえも失ったイエスを追い求めるカルメル。その霊性の根源に迫る。アビラのテレジア／十字架のヨハネ／小さきテレーズと東洋的霊性

第8巻



### 神に向かう〈祈り〉 解説・高橋重幸

東西における祈りの方法論を丹念にたどりつつ、キリスト教の祈りの本質を明らかにする。考える祈り、思う祈り、愛する祈り／現代における祈りの指導者／祈りとは何か？

第9巻



### 奉獻の道 解説・宮本久雄

すべての人にみずからを与えつくす奉獻生活を通して、人間そのものの神秘を見つめる。清らかな矛盾／世を変えるパン種として／清貧の誓願／現代に生きる修道者の霊性

カルメル会会員、在俗会メンバーの方々には特別割引があります。直接お問い合わせ下さい。

**オリエンズ宗教研究所** 〒156-0043 世田谷区松原 2-28-5

**TEL : 03-3322-7601 FAX : 03-3325-5322**

ホームページ : <http://www.oriens.or.jp/>

# カルメル会の企画案内



カルメル会の標語

**Zelo zelatus sum pro Domino Deo exercituum**

私は万軍の神、主に情熱を傾けて仕えてきました（列王記上 19 : 10）



## 東京 上野毛 霊性センター

黙想企画 \*\*上野毛 聖テレジア修道院(黙想)\*\* \*\*  
(2021年~)

- ・祭日のミサに参加するために

チェックイン午後3時以降可、チェックアウト午前10時

### 【クリスマス】

12月24日(金)~25日(土) 朝食《講話なし、夕食なし》

- ・聖書深読黙想会(土曜日17時~日曜日16時) 大瀬高司 神父

7月 3日(土)~ 4日(日) 2022年

8月28日(土)~29日(日) 1月 8日(土)~ 9日(日)

10月 2日(土)~ 3日(日) 3月12日(土)~13日(日)

11月27日(土)~28日(日)

- ・《カルメル会聖人に学ぶ黙想会》(水曜日10時~16時・昼食付) カルメル会士

6月16日 7月21日 9月22日

10月20日 11月17日 12月15日

2022年 1月19日 2月16日 3月16日

- ・一泊黙想会 (土曜日17時~日曜日16時) カルメル会士

7月24日(土)~25日(日) 2022年

9月25日(土)~26日(日) 1月29日(土)~30日(日)

11月20日(土)~21日(日) 3月19日(土)~20日(日)

- ・奉獻生活者のための黙想会 (初日17時~最終日朝食) カルメル会士

8月 1日(日)~10日(火)

8月16日(月)~25日(水)

12月27日(月)~1月 5日(水)

- ・青年黙想会(男女) 35歳まで(初日16時~翌日16時) カルメル会士

2022年 3月25日(金)~27日(日)



- ・ 召命黙想会(男女) 40歳まで(初日16時～翌日16時) カルメル会士  
11月 5日(金)～7日(日)
- ・ カルメル会召命黙想会(対象男子) (土曜日16時～日曜日16時)カルメル会士  
6月12日(土)～13日(日) 2022年  
10月 9日(土)～10日(日) 2月26日(土)～27日(日)  
12月11日(土)～12日(日)
- ・ 特別黙想会(初日20時～最終日16時)Sr. 伊従信子(ノートルダム・ド・ヴィ)  
6月18日(金)～20日(日)  
11月12日(金)～14日(日)
- ・ キリスト教霊性入門(10時～16時 昼食付) 松田浩一神父  
6月17日(木) 7月8日(木)



- \* 日程、指導司祭は変更される可能性もあります。お申込みの際には、ホームページ (<http://www.carmel-monastery.jp>) なども合わせてご覧下さい。
- \* こちらに掲載されている以外の日時にもご利用可能です(グループ、個人いずれも)。お気軽にお問い合わせください。
- \* 間違いを避けるため、お問い合わせはFAX・はがき・Eメール等、文書でお送り頂きますと幸いです。

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛2-14-25  
聖テレジア修道院(黙想)

Tel:03-5706-7355 Fax:03-3704-1789

Eメール: [mokusou@carmel-monastery.jp](mailto:mokusou@carmel-monastery.jp)

ホームページ: <http://www.carmel-monastery.jp>



## ★★★カルメル会召命黙想会★★★

カルメル会の靈性を生きることとおして教会に生涯を奉げる道があります。聖テレジアや十字架の聖ヨハネらの教えに培われて、人々に祈りと兄弟的な生活を証ししていく道です。この道に関心を抱き、心に神の呼びかけを感じている方のお手伝いをさせていただきたいと思ひます。

指導：カルメル会士

対象：カルメル会の召命に関心のある男子

場所：カルメル会聖テレジア修道院（黙想）

日時：2021年 4月10日（土）～11日（日） 16時～翌日16時

6月12日（土）～13日（日） //

10月9日（土）～10日（日） //

12月11日（土）～12日（日） //

2022年 2月26日（土）～27日（日） //

会費：¥5000（3食付き）

\*お問合せ お申し込み：

カルメル会聖テレジア修道院（黙想）

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛 2-14-25

TEL.03-5706-7355 FAX.03-3704-1789

Eメール [mokusou@carmel-monastery.jp](mailto:mokusou@carmel-monastery.jp)



キリスト教放送局

**FEBBC**

2021.4~2021.9

# 2021年春夏 番組案内

AMラジオ放送

AM1566kHz 毎夜9:30~

〈全国放送〉

インターネット放送

www.febcjp.com 〈毎日更新〉

**日**

夜9:30~  
**全地よ主を  
ほめたたえよ**  
主日礼拝取材番組

- [第1] 日キ教会 高知旭教会
- [第2] 日基教団 石動教会  
※4~6月
- [第3] 日基教団 久万教会
- [第4] 日基教団 小岩教会  
・7~9月
- [第3] ホーリーネス教団  
東京中央教会
- [第4] 日基教団  
中標津伝道所
- [第5] 各地の教会

**月**

[月~金] 夜9:30~  
FEBBC TODAY - 今日の聖書・今週の讃美歌 -  
**恵子の郵便ポスト**

夜9:48~ **聴く信仰**  
「いのち」をいただく  
御言葉黙想  
山内十束  
物心ツツク・御受難修道会  
宣教師の家の司祭

夜10:14~  
**Echo of  
Voices**  
長倉崇宣

夜10:28~  
**御足の跡を**  
小池与之祐  
日基教団 神の愛  
キリスト伝道所 牧師

**火**

夜9:47~  
**幸福宣言**  
一主イエスの  
山上の説教に聴く  
竹森満佐一  
日本基督教団元牧師

夜10:14~  
**五十嵐  
ジュンの  
The  
Contemporary  
Christian Music**

夜10:28~  
**FEBBC Sprout!**  
長倉崇宣

**水**

夜9:47~  
**嘆きに応える  
神の御言**  
金田聖治  
日キ教会  
上田教会牧師

夜10:14~  
**主に向かって  
歌おう**  
飯 靖子  
日基教団 豊南坂教会  
聖歌隊指揮者・オルガンリスト

夜10:28~  
**ふらっと  
トーク**  
中川信一  
長倉崇宣

**木**

夜9:47~  
**Session**  
一イエスのTune  
合わせて  
早矢仕宗伯  
「NCAM-イエスの風」牧師

夜10:14~  
**光、イイス  
というお方**  
ゲオルギイ  
松島雄一  
日基教団 大坂/リストス  
証教会 賛同司祭

夜10:28~  
**聖書を開こう**  
山下正雄  
RCJメディア  
ミニストリー 代表

**金**

[第1] 夜10:25~  
**外からの「声」**  
—FEBBC HANGOUT!  
[第2] 夜9:47~  
**アンカーライブ**

[第3~4] 夜9:37~  
**生きているとは、  
キリスト**  
小林和夫 ホーリーネス  
東京聖書学院教会牧師

[第3~4] 夜10:20~  
**Meguの  
CCM insight**

**土**

夜9:30~  
**海二と恵子の  
ピタミンK(再)**  
大竹海二  
日本長老教会  
中部中会巡回教師

[第1~3] 夜10:04~  
**コーヒー  
ブレイク・  
インタビュー**  
インタビュー  
吉崎恵子・長倉崇宣

夜10:31~  
**黙想のとき(再)**  
主よ、共に宿りませ  
安保ふみ江



## 宇治カルメル会 黙想会案内 (2021年度)

現在、緊急事態宣言により黙想会を中止しております。  
今後の予定も変更される場合があります。

**【一般のための黙想】** 中川博道神父  
1泊2日 (土曜午後5時～日曜午後4時)  
5:30 サルヴェ・レジーナ (修道院) から開始  
6/5～6 7/17～18  
9/18～19 10/30～31

**【聖書深読】** (午前10時～午後4時) 中川博道神父  
6/26 7/24 9/4  
10/2 11/6 12/18

**【水曜黙想会】 (第3水曜日)** (午前10時～午後4時)  
6/16 7/21 9/15 10/20 11/17 12/15  
(6/16 7/21 11/17 カルメル宣教修道女会 Sr. ロサ)  
他すべて 中川博道神父

**【カルメルの霊性】** (午後5時～午後4時) 中川博道神父  
幼きテレジア 10/2 (土)～3 (日)  
十字架の聖ヨハネ 12/11 (土)～12 (日)

**【奉献生活者の黙想】** (午後5時～午前9時) 一般可  
7/29 (木)～8/7 (土) 中川博道神父  
9/20 (月)～29 (水) 中川博道神父  
11/8 (月)～17 (水) 中川博道神父  
12/27 (月)～1/5 (水) 中川博道神父

**【待降節黙想会】** (午後5時～午後4時) 中川博道神父  
12/4 (土)～5 (日)



## 【祭日のミサに参加するために】

### \*<聖週間を祈る>

チェックイン午後4時以降可、チェックアウト午前11:30  
聖木曜日から復活祭まで通してどの曜日からでも参加可。(講話なし 食事つき)

### \*<クリスマス>

12/24~25

チェックイン午後4時以降可、チェックアウト午前11:30  
(講話なし 食事つき)

—その他皆さまが企画なさったグループ黙想会、個人黙想も歓迎いたします—

☆お申し込みは電話でも受け付けておりますが、できるだけFAX、はがき、Eメールでお名前と連絡先を御記入の上、お申込み下さい。お電話はなるべく午前9時~午後5時の間をお願い致します。受付が休みの場合はその場ですぐにお返事できませんので、お手数でも後日改めてお問い合わせ下さる様をお願い致します。



〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山 39-12  
宇治カルメル会 聖テレジア修道院 (黙想)  
Tel 0774-32-7016 Fax 0774-32-7457  
E-Mail: teresiauji@mountain.ocn.ne.jp  
<http://www.carmeluji.sakura.ne.jp/>



## 朝日カルチャーセンターの 通信深読「聖書に親しむ」へのご案内

「通信深読」は、「聖書深読黙想会」にさまざまな理由で参加できない方々のために考案されました。参加を希望される方は、下記の朝日カルチャーセンター通信講座課へお申し込みください。手続きがすめば、次のような手順でこの「通信深読」が行われてゆきます。

### ファースト・ステップ

「個人素読」：毎月、朝日カルチャーセンターから指定された聖書深読箇所を、ひとりで繰り返し読み、み言葉を自由に黙想します。

### セカンド・ステップ

「個人素読」の報告書作成：送られてきた用紙（B5用紙）に、深読箇所特に印象に残った節を二三ヶ所選び、番号と○や△や×などの記号を記し、「全」には、全体の印象を表す、ご自分の体験と結びついた具体的な名詞を、「照」にはみ言葉を実践する決意を示す動詞を書き込みます。さらに「所感」や「近況報告・質問」の欄に、ご自由に自分の考えや質問等を記入します。

### サード・ステップ

（参加者から朝日カルチャーセンターへ送られた「個人素読」の報告書は、参加者全員のものまとめられ、講師へ送られます。）

講師が各参加者の「個人素読」の報告書に対しコメントし、深読箇所の「解説」（A4 2枚）と共に、朝日カルチャーセンターへ送り返します。

### フォース・ステップ

コメントされた全員の「個人素読」の報告書（「近況報告・質問」はプライベートなこともあるので、削除されます）と「総合素読表」、そして講師の「解説」が冊子となり、各参加者に、センターから送られます。

\* 費用：6ヶ月（20,360円）。納入は4月、7月、10月、1月。継続の場合19,130円。

\* 講師：九里彰師（奇数月）、今泉健師（偶数月）

\* 問い合わせ：〒163-0278 東京都新宿区西新宿2-6-1 新宿住友ビル

私書箱21号 朝日カルチャーセンター通信講座課

Tel: 03-3344-2527（直通）

## 諸所の企画案内



真命山 霊性交流センター  
ノートルダム・ド・ヴィ  
サダナ瞑想  
慈しみ深き会

※注)

諸所の企画記事は集約・編集しています。  
記載には注意を期しておりますが、  
詳細は各問い合わせにご照会下さい。  
よろしくお願い致します。

## 真命山 2021年 — 祈りの集いのご案内

### 「祈りの実り：イエス様と共に、 イエス様のように生きること」

毎月第2木曜日（10:00～15:00）

指導者 フランコ神父

1月14日 柔和な師イエスに習う(マタイ11・29)

2月11日 謙遜な師イエスに習う(マタイ11・29)

3月11日 十字架を背負っているイエス様に従う(ルカ14・27)

4月 8日 神の国でキリストと共に食事の席に着く(ルカ22・30)

5月14日 給仕するイエス様に学ぶ(ルカ22・27)

6月10日 「私があなたがたを愛したように…互いに愛し合いなさい」  
(ヨハネ14・34)

7月 8日 祈るイエス様に習う(ルカ11・1)

\* \* \*

9月 9日 「病気や患いを癒された」イエスの模範に従う(マタイ4・24)

10月14日 「福音を宣べ伝えた」イエスの模範に従う(マタイ4・24)

11月11日 ナインの母親を見て、憐れに思ったイエスと共に(ルカ7)

12月 9日 「行って…場所を用意したら、戻って来て、あなたがたを  
私のもとに迎える」(ヨハネ14・3)



※個人またはグループでの黙想会  
研修会も歓迎いたします(要予約)

申込先

真命山 諸宗教対話センター

865-0133 熊本県玉名郡和水町蜻浦1391-7

e-mail: shinmeizan@gmail.com

www.shinmeizan.com

tel:0968-85-3100



# 講話と祈りのつどい

コロナウイルス感染の広がりにより、  
予定しておりました「講話と祈りの集い」の開催を  
現在保留にしております。

状況の推移を見守りながら開催の有無を  
当会のHPに掲載いたしますので、  
そちらをご覧くださいいただければ幸いです。

担当 中山真里

\*\*\*\*\*

ノートルダム・ド・ヴィ

〒177-0044 練馬区上石神井4-32-35

TEL(03)3594-2247 FAX(03)3594-2254

e-mail [notredamedevie.japan@gmail.com](mailto:notredamedevie.japan@gmail.com)

# サダナ瞑想 ～東洋の瞑想とキリスト者の祈り～

プログラムの詳細、開催状況、補充情報などはホームページをご覧ください。

<http://sadhana.jp/>

申込み受付・・開始日の8日前まで

コース	日時	指導	開催場所	申込み
名古屋入門C	6/20(日)9:30- 17:00	Fr植栗	聖霊会 八事修道院 ミッションセンター (名古屋市昭和区)	攪上(かくあげ)暁子 050-7108-7410 ngosdn@gmail.
サダナI	6/24(木)17:30- 27(日)16:00	Fr植栗	カルメル修道会上野 毛修道院 黙想の家 (世田谷区上野毛)	来間(くるま) 裕美子※ 090-5325-2518 sadhana12378@yahoo. co.jp
フォローアップ	7/4(日) 9:30-17:00	Fr植栗	★ニコラバレ修道院 1F(四ツ谷)	同上
フォローアップ 新I	7/11(土) 9:30-17:00	サダナ チーム	★ニコラバレ修道院 16時よりミサ 椅子での黙想です	同上
宝塚 I & アドバンス	7/22(木)17:30- 25(日)16:00	Fr植栗	女子御受難会修道 院)(宝塚市)	西村優子 090-8480-2661 野 真理子 090-6758-3369
札幌 フォローアップ	8/26(木)9:30- 27(金)18:00	Fr植栗	詳細は申込担当ま でお問合せください	本間攝子 080-3260-1864 本間不在時は山崎有紀 090-4720-2157
札幌 I & アドバンス	8/28(土)9:30- 29(日)18:00	Fr植栗	同上	同上
妙高 I & アドバンス	9/3(金)9:00- 5(日)17:00 前泊可	Fr植栗	妙高教会 赤倉山荘 (新潟県妙高市)	佐藤範子 080-3145-3646

※申し込まれると確認メールが返信されます。確認メールが届かない場合は、090-5325-2518 (来間) までお問い合わせください。

※不在の場合は、渡辺由子 Tel&Fax : 042-325-7554

★会場が変更になる可能性があります。

●入門Cへの参加=入門Aまたは入門Bを終えていること。

●フォローアップおよびリピーターへの参加=サダナIを終えていること。



## 念祷の集い

～沈黙の内に神を求めて～

場所：イグナチオ教会岐部ホール404号室

時間：以下の木曜日

14:00～16:00(講話と念祷)

主催：慈しみ深き会



くのり

指導：九里 彰 神父（カルメル修道会）

## 中止のお知らせ

2021年度予定

予定しておりました「念祷の集い」は教区よりの指示により、当分の間中止となりました。再開については、再度紙面にてお知らせ致します。

連絡先：篠原 三恵子

Tel:042-473-6287

e-mail: mieko.shinohara@gmail.com

※各黙想会内容・日程等、詳細については各問い合わせ先に、ご確認ください。

# 『靈性センターニュース』

## \* 郵送お申込みのご案内 \*

ご郵送は、基本的に1月から12月までとなります。  
途中からお申し込みの場合は、お申し込みの翌月から12月までとなります。  
例：6月申込の場合は、7月号～12月号（但し8月号は休刊）となり、  
5冊となります。ご希望の月数×250円程度の献金を下記口座  
へお振込み頂ければ、幸いです。

郵便番号口座： 00910-6-333184  
加入者名： カルメル靈性センターニュース事務局

なお、振替用紙の通信欄には、「郵送申込」（何月から何月まで）、また氏名、  
郵便番号・住所、電話、Fax等ご明記ください。

また、郵送お申込とは別に、ご献金もお願いしております。

その場合は、「献金」とご記入お願い致します。

何かご質問等があれば、事務局の方にご連絡ください。

〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山 39-12  
カルメル会宇治修道院 「靈性センターニュース事務局」  
Tel:0774-32-7456  
Fax:0774-32-7457

[reisei@carmel-monastery.jp](mailto:reisei@carmel-monastery.jp)

男子跣足カルメル修道会のホームページ

<http://www.carmel-monastery.jp>

Google:「カルメル会」で検索できます



男子跣足カルメル修道会  
Order of Discalced Carmelites

靈性センターニュース掲載の情報も載っています



## あとがき . . . つぶやき . . .

『靈性センターニュース』を担当させていただいて、ちょうど二年が経ちます。この間、「靈性」を思いめぐらしながら、いつも心に響き続けている教皇様のことばがあります。ご紹介したいと思います。

「イエスにお目にかかりたいのです」(ヨハネ 12・21)。この願いは、…大聖年を過ぎたわたしたちの耳にも靈的にこだましています。二千年前の巡礼者のように、今日の人々は今日の信仰者に、たとえ意識的にでなくても、キリストについて「語ってほしい」だけでなく、ある意味でキリストに「会いたい」と願っています。教会の務めは、歴史のあらゆる時代にキリストの光を放つことであり、今日も、新しい千年期の人々の前に、キリストのみ顔の光を輝かせることではないでしょうか？

しかし、わたしたちがまずキリストのみ顔を観想しない限り、わたしたちのあかしは、耐え難いほど貧弱なものであるに違いありません(『新千年期の初めに』16)。

多方面で世俗化が進んでいるにもかかわらず、世の中に靈性の要求が普及していることは、今日見られる「時のしるし」です。このしるしは、世界の大部分において、祈りの新たな必要として表面化してきたのではないのでしょうか？…ここで、輝かしい多くのあかしの中でも、十字架の聖ヨハネの教えや、アピラの聖テレジアの教えをどうして忘れることができるのでしょうか？(同 33)

**交わりの靈性**：教会を、交わりの家、交わりの学校にすること。これは、新しい千年期に、もしわたしたちが神のご計画に忠実でありたい、世の大きな期待にもこたえたいと望むならば、わたしたちの目前に迫る大きな挑戦です(同 43)。

孤立、それは内在主義の言い換えであり、神を排斥した偽りの自立として表現されます。しかし、宗教界では、それは不健全な個人主義に見合った靈的消費主義として見出されます。現代を特徴づける、聖なる者への回帰とか靈的な探求といったものは、両義的な現象です。今日わたしたちが直面しているのは、無神論以上に、多くの人の神への渇きにふさわしくこたえるという課題です。人間性に欠けた提案や、肉を伴わず他者とのかわりももたないイエス・キリストでもって、それに応えようとはなりません。彼らが、交わりの連帯と宣教の実りへと招くと同時に、人間を癒し、解放し、いのちと平和で満たす靈性を教会の中に見出さなければ、人間らしさに欠けた、神に栄光を帰すこともない提案によって欺くことになってしまうでしょう。

(『福音の喜び』89)

これからも、「靈性」を真実に生きる道を、教会と共に探しつづけることができますように願っています。これからもよろしく願いいたします。(Fr. 中川博道 o.c.d.)

